

第2回 伊賀市行政情報番組検討委員会 議事概要

日 時：平成31年2月26日（火）
午後3時30分～4時30分
場 所：本庁舎 4階 会議室405

<出席者>

委 員：山菅委員長・上田副委員長・前山委員・大島委員・小坂委員・玉田委員
事 務 局：企画振興部部長 宮崎 寿
企画振興部次長 東 弘久
広聴情報課長 越村 憲一
広聴情報課主幹兼広報広聴係長 馬場 俊行
広聴情報課主任 川合 理恵
広聴情報課 波多野 慈子

<事項>

- 1 あいさつ
- 2 報告 ・前回いただいた意見に対する取り組み状況の報告
・行政チャンネルのアンケート中間結果について
- 3 議題 ・行政チャンネルのアンケート中間結果をうけて
・見てもらえる行政チャンネルの製作について
- 4 その他

<議事概要>

- 1 役職交代による新委員の紹介
- 2 報告
・前回いただいたご意見に対する取り組み状況を下記のとおり報告した。

【事務局説明】

- ① 行政情報番組のチャンネルを1つ持つのではなく、ケーブルテレビ番組の中に行政放送枠を組み込むことで経費を削減できないのか。

⇒経費については伊賀上野ケーブルテレビを交えて検討を始めているところ。放送費については、ケーブルテレビの1コマを借りて放送するほうが安くなる可能性があるが、現在の放送枠では行政情報番組以外にも、議会や災害時放送、L字放送による緊急情報があり、1コマの枠を購入し放送するとなるとこれらの放送が流せなくなる。このことから、市からの情報発信全体に関わるため、経費だけでなく、情報弱者への伝達方法を含めて引き続き検討していく。

② だから忍者市宣言のコーナーについて、子ども向けの明るい入門編のようなものを盛り込んでいくと良いと思う。

⇒12月放送分までは、日本遺産に認定された忍びの里伊賀・甲賀のストーリーに沿った史跡等を放送してきた。しかし2月には忍者市を宣言してから2年経ったため、2年間の市の取り組みを紹介し、3月以降はできるだけ堅いイメージにならないよう、子どもでもわかりやすいような忍者の基本的な部分について紹介したいと考えている。

・市の行政チャンネルアンケートの中間結果について下記のとおり報告した。

【事務局説明】

本来ならば、11月もしくは12月に発送する予定だったが、市の広報と合わせて市議会の広報を発行している議会事務局もアンケート調査をするとのことだったため、今回は合わせてアンケートを取らせてもらった。回答者数は年齢別でみると、40歳代までは少なく、ほとんどが65歳以上の人に回答いただいた状況である。市からの情報を何から得ているかについては、88.2%の人が、広報いが市から得ていると答えた。続いて、回覧板、行政情報番組、知人からの会話から得ていると答えた。この回答については、性別による偏りは見受けられなかった。次に、年齢別でみてみると、広報いが市・回覧板・行政情報番組は年齢が上がるほど数値が高くなり、その一方若い年齢層は、知人との会話からの情報源が多いことが分かる。関心のある市の情報については、市の施策・防災・税金・介護・福祉になっているが、アンケートの回答を年齢別でみたときに65歳以上の人が多かったことから、全体的に興味のあるものがこれらだけとは判断しにくい。30・40歳代は子育てや教育に関心があり、高齢者は市の施策や介護、福祉に興味があることが年齢別でみると分かる。ウィークリー伊賀市を見ているかについては、20%の人が月に1～2回程度見ていることが分かる。

たまに見る人も含めると、52.9%と半分の人が行政情報番組を見てくれていることが分かる。これも年齢別にみると、「毎週見る」の割合は年齢が上がるほど高くなっているのが分かる。次に、行政情報番組を見ない理由については、「伊賀市に興味がない」という回答も若い人にはあるが、大きくは、「必要な情報が少ない」「民間放送から情報を得ている」部分が半数となっている。逆に見てくれている人に対して、よく見るコーナーについてきいたところ、市内で行われた行事やイベントを紹介する「できごと」が40%と高い

割合になっている。例えば、自分が出演している、近所の人や子どもたちが出ているなどで見ようと思ってくれることが多いと考えられる。続いて、災害情報を見たことがあるかについては、だいたい6割の人が見ている。また、市議会中継を見たことがあるかについては、「ほとんど見たことがない」「放送が知らない」という人が70%を超えているのが現状である。最後に、行政情報番組をケーブルテレビから1コマの枠を購入する方法を検討する際の材料として、一週間の間でいつ見るか・どの時間帯見る人が多いかを見てみたところ、やはり平日よりも休日のほうが見る人が多く、見る時間は午後5時以降が高い割合を示していた。アンケートは広報紙やF B、HP等の他の内容と一緒にアンケートを取らせてもらったが、今回の中間発表は行政情報番組検討委員会ということで行政情報番組の部分の抽出したもので、また期間も短く大まかな中間発表となっていることをご了承ください。

【委員長】

では、事務局からの報告ということでしたのでよろしいでしょうか。次に、事項3の議題に入らせていただきます。事務局から説明をお願いします。

【事務局説明】

先ほどのアンケートの中間報告を受けてということですが、議題の(1)(2)合わせて説明させていただきます。今回のアンケートではどういう層の人が見るのかという調査をさせてもらって、例えば高齢者は見ている割合は高くなっていますが、月に1回、2カ月に1回しか見ない人などが、見る回数を増やしてもらうためには、どういうコーナーや内容を取り上げたらいいのかということ。議題の(2)について、今取り組んでいる「だから忍者市宣言!!」ですが、もう少し忍者の基本的なところを取り上げた後は、他のコーナーに入れ替えるのならば、例えば市としてはハタラキカタ改革でイクボス宣言をしてくれている企業を取り上げて、「うちの企業はこのような取り組みをしています」等を紹介し、企業の紹介と市内での就職につながるような番組や、伊賀ブランドのI G AMON O登録商品の紹介を取り上げるコーナーを作ってはどうかと考えてみた。その他に、市民の目線からみて「こういうものを取り上げたら、もっと見るようになるのでは」などがありましたら、ご意見をいただきたい。

【委員長】

それでは事務局からの説明を受けまして、ご意見・ご質問がありましたらお願いします。

【委員】

前回の委員会のご意見に対する取り組み状況にも出ていましたけれど、忍者について、子ども向けの明るい入門編のようなものという意見は出ていて、これからの子どもや若い人に興味を持つようなものも必要だとは思いますが、子ども向けだけではなく専門的な

ところも見入る人がいて、子ども向けとは違う層があると思うので、違う層の人に対しての内容も盛り込んでいく必要はあると私は思います。前にもNHKで紹介されていた伊賀市の忍者については、かなり専門的な内容で紹介していましたし、全国放送でも、専門的な内容を視聴してくれる層があると思うから夜の8時台で放送していたし、子ども向けの内容だととっつきやすいかもしれないが、入門編ばかりだとコーナーとして長続きはしないように思いますがどうでしょうか。

【事務局】

確かに、子ども向けばかりだと大人など詳しいことを知っている人たちは見てくれなくなると思いますので、例えば、忍者市宣言のコーナーでしたら今まで専門的なところを紹介してきましたけれど、今後は入門編のような子ども向けの内容も織り込ませていきながら、いろんな層の人たちに見てもらえるよう取り組んでいく必要があると思っています。

【委員】

市から流しにくいかもしれませんが、議会で問題になっている南庁舎の問題や予算の関係はあまり放送するようなことはしないのですか。新聞や他のテレビでは取り上げていたりすると思いますが、予算関連で、特に市民が興味をもっていたり気になっているところだとは思いますが、議会などとの関連で流せないものなんでしょうか。

【事務局】

既決予算であれば放送することはできますし、この予算でこんな事業をやっていきます、などは放送することができます。しかし、決まっていることであれば流せますが、どうなるのか分からないことなどの不確定なものを放送することは難しいということがあります。

また、情報を公正に流せたらいいんですが、行政番組チャンネルということで行政が作った番組で行政の洗脳になってしまっただけでは問題がありますので、第三者が公平に流してくださる分には問題ないのですが、なかなか行政が取り上げるということには難しい問題になります。担当者は、市のアピールをしてしまうところがありますので、客観性を保つのが難しいかと思います。

【委員】

いがぶら事業などはあまり取り上げないんですか。

【事務局】

いがぶら事業も放送はさせていただいています。特集を組んで、伊賀市の施策を担当者も交えて、時には市民も参加してもらって放送しています。やはり市民の方が出て頂けた内容はよく見ていただけているのかなと思います。

【委員長】

議題（１）（２）を踏まえて、全体としてご意見はありませんか。

【委員】

行政番組をどのようにしたら見てもらえるかと考えたときに、たとえば高齢者の人たちだったらどういう内容を見られるか考えてみますと、アンケートでも健康や福祉に興味があると示されていますので、テレビでよくやっている健康に関する食事やレシピ、例えば糖尿病だったらどういう食材がいいよ、などの内容を10分の特集の中で取り上げてもらうのもいいと思います。あと、介護予防について各地域で取り組んでくれていると思いますが、会場まで行けない人もいますので、介護予防的な簡単な体操をテレビで放送してもらって、行けない人も情報が聞けたらいいなと思っています。私もサロンで忍にん体操を試してみたり、簡単なボケ防止の体操をしたりしますが、サロンなどに行けない人たちも、テレビでそういうのをしてくれたら真似ができていいかなと思ったりします。

あと、以前からもずっと思っていますが、地域の人が出ていくということが大事だと思います。地域で輝いている人や頑張っている人をリレー方式でインタビューするなど紹介していくと、自分の知っている人が出ていくとなると見るんじゃないかなと思います。スポーツ選手や近くで頑張っている人を見たりすると、「私も頑張ろう」と思えるし、地域の人を紹介していくのがいいかなと思います。

それと、警察でしている詐欺情報についての注意喚起を、短くてもいいので流していくのもいいと思っています。

あと、イクボス宣言と取り上げる話ですが、企業への就職の紹介につなげるということ、確認ですが、企業の事業内容や紹介は市からしてもいいんですか。

【事務局】

これは、まったく関係ない企業を取り上げるわけではなく、市のイクボス応援宣言に賛同して一緒に取り組んでくれている企業ですので、企業の事業内容を細かく紹介するのではなく、イクボス応援宣言を行って企業としてどう取り組んでいるかを紹介するようなもので考えています。

【委員】

質問ではないんですが、特集や特別番組で、季節的なことであったり、自殺対策週間など、時期にあったものを放送してくれているので、見ている側からしたら、今こんな時期なんだということやこんなイベントが市で開催しているのかを知ることができて、いい情報になっています。あと、保健師さんからの話とか、消防士さん、警察の人など専門の人たちが放送に出てくれていることで、いろんな顔がこちらからも見られますし、専門の人が話してくれていると、話がすっと入っていくんじゃないかなと思います。あと、みんな忍にん!!も市民の顔が見られて、今回の放送の回も、みんなが楽しそうにしている自分

も真似したくなるので、とても良いコーナーだと思います。これからもできごとでイベントを紹介するのもいいと思いますが、これから開催されるイベントについて、もっと情報を紹介していくといいと思います。

【委員】

防災についての企画は少ないんじゃないですか。安全安心や予防などについて取り上げるのも大事だろうし、これから豪雨もすごくなりますので、対策や避難指示などが出ても誰一人避難しないというのも聞いたことがあるので、豪雨の本当の怖さや避難の大切さを取り上げてもらうのが大事だと思います。地震も怖いですが、今は水害が怖いなと思いますので。

【事務局】

そうですね。映像なども織り込みながら取り上げていく必要があると思いますし、防災に対する意識啓発に関して番組で取り上げたいなと思っていますので、危機管理の担当課と協議しながら進めていきたいと考えております。

【委員】

今聞かせていただいた避難情報の話ですが、スマートフォンなどに毎回同じようなところが避難情報など情報が来ますが、実際のところ避難していないんですか。

【事務局】

数名は避難される人が毎回います。

【委員】

毎回同じようなところがあるので、慣れてしまっていて大丈夫と判断して避難してないということもあるんですね。

【事務局】

地域の方は避難情報に慣れていたり、やはり外に出て避難するのも怖くて出られないということもあるかと思います。

【委員】

ただ、本当に何かあったときは怖いですね。行政から勧告を出しているのにほとんど避難しなかったでは困りますね。避難していたけど何もなくてよかった、というのが本来であって、本当に危険なときには今の状態だと大変なことになりますね。きちんと出される情報には、危ない数値などの基準があるんでしょう。

【事務局】

はい。自治体などで、この数値にきたら情報を出しましょうなど基準は決めてあります。土砂災害は水分の含有量などで判断するんですが、24時間内の累積雨量などが問題になり、実際の外の天気と土砂の状況とにずれがあって、見た目の状況と違うことがあります。しかし、避難してもらうためには、地域ごとに日頃から防災に対する訓練や危機感をもっと持って一緒に意識を高めていかないといけないと思うんです。そしてそこに、行政番組がどれだけ関わっていかけるかを今後考えないといけないと思います。

【委員】

地域での取り組みが大事になってきますよね。今は地域によって危機意識の違いがありますよね。

【事務局】

避難準備などでも明るい時間帯に高齢者の人に避難してもらうよう情報を出している時も、避難してくれている人はいつもしてくれるんですが、人によって変わってきます。ただ、行政としては空振りであったとして情報は出し続けたいと聞いています。

【委員】

実際の市民に対して、空振りでもいいから前もって行動していただくよう啓発していかないといけないし、地域によって危機感に温度差があるのも問題だと思います。

【事務局】

たとえば、地域でひどい被害などを経験している人がいたり体験を聞いている人たちがいる地域は、危機意識が高くなっています。ですので、行政番組にも、体験された方や実際の被害の様子などを紹介して、啓発をすることが大事かもしれませんね。

【委員】

それいいですね。

【事務局】

回覧板などで、この人が番組で被害体験を話してくれますなどを先に周知しておくとうちにいいかもしれないですね。

【委員】

行政情報番組等のテレビに出るということがインパクトになると思う。

【委員】

行政情報番組を見ない理由の中で、65歳付近の人たちが番組を知らないことが多いというのは、周知が足りないのですか。

【事務局】

自由筆記の欄で記入されていたのが、見方が分からないという人もいました。上野管内なら、12チャンネルを押せば映るんですけど、青山だったらチャンネルを順番に押していかないと映らないなど、見る方法が違ったりするのが問題であると思います。

【委員】

地域によって番組を見るチャンネルが違ったり、見る方法が違うのが問題ですね。ケーブルさんをお願いして青山地域も同じ方法で見られるようお願いしたり、ちょうど65歳付近の定年後で時間もある人たちが見てないというのは不思議ではない。

【事務局】

今は広報紙で番組の紹介だけを載せてますが、もう少し拡大版や特集などで、行政番組だけじゃなくてFBやHPなど色んな媒体で発信していることを、一番見ている広報紙に載せて紹介することも検討しているところです。

【委員】

市民スタッフさんが番組の最後に見てくださいなど言ってみたり、番組を知ってもらうための発信が必要だと思います。

【事務局】

あともう1つ見ない理由の中で、ケーブルテレビに入っていない人もいます。入っていない人たちのためにも、広報紙でケーブルテレビに加入すると良い点などを紹介することはできると思います。

【委員】

高齢者世帯なら軽減されるんですよね。

【事務局】

市のほうで、非課税世帯など条件はありますが軽減する制度はあります。

【委員】

軽減制度があるということを知らない人は多いんじゃないですか。

【委員】

子育て世代は、子育て支援センターがありますけど、高齢者の方たちはサロンですよ。サロンは何度か利用するので、4月になったらサロンの入れ替えとかありますから、行政番組の紹介などをしてもらおうように社協さんに協力してもらったらいんじゃないですかね。子育て支援センターで番組表を置いているように、サロンなどでも置いてもらえばいいんじゃないかなと思います。

【事務局】

他にもアンケートの中で、「SNSを使っていますか」という質問に対して、アンケート回答者は高齢者が多いので、SNSは「ほとんどやっていない」ばかりでした。通常の情報は回覧板や広報紙で得ることができますが、緊急時の情報を情報弱者にテレビ以外の方法で発信していくことも考えていけないなと考えています。

【委員】

ウィークリーで最後にご意見があったらこちらまでと放送していますが、実際に意見などが届いたりするんですか。

【事務局】

電話はものすごく稀にあります。ただ、今はHPの方で、参声広場とってご意見いただける問い合わせフォームがあるので、それぞれ各担当課に対してかなりの数の意見が届いたりしています。ですので直接、広聴情報課へというのは、本当に稀にしか届かないです。

【委員長】

ほかにご意見、ご質問がありますか。
では、ないようでしたら事項書の4、その他にいかさせていただきますが、全体として何かありますか。

【委員】

伊賀市の忍者市宣言について興味があるんですけど、対外的には世界からも忍者のパフォーマンス的などに注目されているのかなと私自身感じてはいるんですが、でもそれだけでなく忍者の内面的なことが必要で興味があるのもっと放送してもらいたいですね。例えば、忍者がどのような生活をしてたかや食事はどんなものを食べていたかなどを紹介して、今ならこの店で同じものが食べられますなどと紹介するのもいいと思います。パフォーマンス的のところだけでなく、もっと根本的のところを取り上げてほしいなと思います。ほかにも、どうして忍者市宣言をしたのかを取り上げて、忍者の祖先の人に番組にも出てもらって、家にこんな品が残っていますなど取り上げたら面白いかなと思います。

ます。

【事務局】

そのような方がいらっしゃったら出ていただけるように交渉していただければいいとは思いますが。

【委員】

上阿波の温泉の方で忍者の体験ができる場所が変わるなどの話も聞いたけれどどうなんですか。

【事務局】

トレイルランといって、JALと提携して山を長距離走るイベントがあるんですが、そのコースを本当に忍者が駆け巡ったコースとして準備したいので、その途中にフィールドアスレチックのような体験ができるように整備できたらと予算に計上している状態ではあります。海外からもトレイルランには参加されたりと、参加者も1000人を超えるほどのものになってきています。

【委員】

忍者ばかりが盛り上がっていますが、荒木又右衛門の資料館が閉鎖したりと、このような忍者以外の遺産がまったく日が当たらなくなるよりも、忍者以外の有名な遺産や伊賀の古い歴史にも注目して、もっと取り上げていただければいいと思います。

【委員長】

他にございますか。それでは本日は番組検討委員会を終了とさせていただきます。ご審議ありがとうございました。